

「よこはまでつながる 暮らしの日本語」7月コース 実施報告

主催:(公財)横浜市国際交流協会

日本に来る外国の人の増加に伴い、学習スタイルも多様化しています。その中の一つがオンラインでの学習であります。

YOKEでは、ウェブ学習サイト「つながるひろがる にほんごでの暮らし」(通称「つなひろ」)を使ったオンライン日本語教室「よこはまでつながる 暮らしの日本語」7月コースを実施しました。

この教室では、日本語学習者が、「毎日の生活の中で日本語でできることを増やす」、「オンライン教材を知り、オンライン教材を使用した自律的な学習へつながる」ことを目的としました。

日常生活の中で日本語に触れる機会が限られている学習者は、「つなひろ」のシーンを見ながら状況・場面で使う言葉やフレーズに触れました。場面や状況にあった言い方が分からないときはサポーターの答えを聞き、このように答えるのだと分かり、自分の言葉で言いたいことを話すようにしていました。

今後もこのような教室活動を通して、学習者がより自然に近い会話に触れる機会を作りたいと思います。

「横浜でつながる 暮らしの日本語」7月コース 学習テーマ「おでかけ」

- 第1回(7/11): 電車に乗ろう
- 第2回(7/18): 道を聞いてみよう
- 第3回(7/25): レストランに行こう
- 第4回(8/1): イベントに参加しよう
- 第5回(8/8): 一緒に、でかけませんか



日時/場所	2024年7月11日・18日・25日、8月1日・8日 木曜日 19:00~20:15 全5回 オンライン(Zoom)
講師	小野里香さん(日本語教師) 片木尚子さん(日本語教師)
参加者・参加人数	<ul style="list-style-type: none"> ・学習者:・横浜市内に住んでいる人・働いている人・横浜の学校に通っている人 ・ひらがなが読める人 ・日本語で簡単な会話ができる人 参加人数:11人(のべ36人) (韓国1 中国4 インド1 インドネシア1 台湾1 フィリピン1 アメリカ1 ベトナム1) <ul style="list-style-type: none"> ・サポーター:横浜市内地域日本語教室で活動している方で、ICT(支援者向け)講座に参加した方など 参加人数: 5人(のべ 9人)



よこはま日本語学習支援センター

Yokohama Nihongo Support Center

<https://yokohama-nihongo.com>

運営:公益財団法人 横浜市国際交流協会(YOKE)

地域日本語教育に関わる方や関心のある方
日本語学習をしたい方

「知りたい・やってみたい・つながりたい」
をサポートします!



「よこはまでつながる 暮らしの日本語」7月コース 実施報告

主催:(公財)横浜市国際交流協会

主な流れ

1全体活動 19:00~19:20

まずウォーミングアップとして、該当のシーンに関する内容を参加者全員で確認しました。
例えば、第1回目の「電車に乗ってみよう」の回では、楽しい話の場になるように、挨拶や「ありがとう」を母語で言ってみる、好きな色について聞いてみる、身の周りでその色を含むものを持ってきて見せ合うなどしました。
その後、日本で出かける際に、よく使う交通手段について聞いたり、電車の利用について確認後、どこに行くときに電車を利用したか、その行き方や所用時間などについて話しました。
このような活動を通して、教室はとても話し易い雰囲気になりました。

2グループ活動 19:20~20:00

2グループに分かれて行ったグループ活動では、講師・サポーター・学習者4~5人が一つのグループになり、「つなひろ」のシーン「なんばんせんですか」を視聴しました。
どんな場面でのやりとりなのかを考えながら、流れてきた音声の中で聞こえた言葉やフレーズを言いました。その後は、内容の確認・大意を理解するためもう一度動画の視聴を行いました。
つづいて、電車を利用する場面で必要なフレーズ・スクリプトに触れ、ペアでの練習を行ったり、自分の経験を自分の言葉で自由に発話するタイムにしました。
学習者が質問などに、どのように答えたらいいかわからないときなどは、サポーターがサポートし、回答例や正しい言い方、話し方を聞くなどの学習を進めました。
また、内容によってグループ活動では、クイズ形式で問題をだし、学習者が当てるような楽しいやり方も取り入れました。

3全体活動 20:00~20:15

グループ活動後、全員が集まったときは、参加者みんなの表情が楽しそうな笑顔になっていました。
最後の全体活動では、グループで出た話などを共有したり、横浜情報を取り入れたりしました。
1回目のテーマ「電車の乗ってみよう」では、横浜駅を通る電車(私鉄、JR,地下鉄)などに触れ、より横浜について知る機会となりました。
また、教室活動の中で印象に残ったことばやフレーズを学習者が書くことで、振り返りにつながり、自律学習への一助になるようにしました。

学習者の声

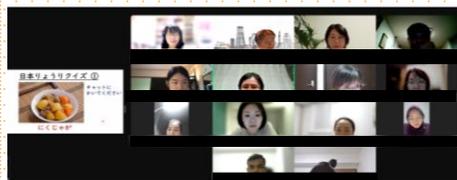
- 日本語が以前より(少し)上手になった。
- 生活に不安に思うことが少なくなった。
- 日本の文化・習慣で分かることが増えた。

サポーターの声

- ・クイズ形式で話をした後ビデオを見て、オンラインで勉強していくことが分かりました。
- ・学習者が住まいの周辺のお店などを教えてくれました。みなさんと話をして楽しかったです。
- ・学習者の話を拾い、会話を発展していました。

講師の声

- ・「つなひろ」を使用した教室はほかにはないので、いいと思った。映像があるのは、分かりやすい。学習者も少し話せる人限定だったので支援しやすかった。
- ・「つなひろ」を使うのは初めてだったので、不安があったが、「学習者は話す場を求めている」これで良かったと思った。最終回では学習者同士の関係性もできていたと思う。



よこはま日本語学習支援センター

Yokohama Nihongo Support Center

<https://yokohama-nihongo.com>

運営:公益財団法人 横浜市国際交流協会(YOKE)

地域日本語教育に関わる方や関心のある方
日本語学習をしたい方「知りたい・やってみたい・つながりたい」
をサポートします!

「よこはまでつながる 暮らしの日本語」10月・1月コース 実施報告

主催:(公財)横浜市国際交流協会

近年、日本に来る外国人の増加とともに、学習スタイルも多様化しています。このオンライン教室は曜日や時間、テーマを変え年3コースを実施しました。より多くの学習者に勉強の機会を提供することと学習者の「毎日の生活の中で日本語でできることを増やす」ことを目的とした教室です。

文部科学省の「生活者としての外国人」のための日本語学習サイト「つながるひろがる にほんごでの暮らし」(通称「つなひろ」)を教材に使用しました。

「つなひろ」の動画を使い、場面の理解と状況・場面に相応しい言葉・フレーズを聞くだけでなく、講師とサポーター、他の参加者との会話を楽しんだり、生活に密着した生の日本語のやり取りを聞いたりしました。

このコースには、地域日本語教室で活動している方が、サポーターとして参加しました。学習者の「日本語を使いたい」「もっと話したい」をサポートしようと、学習者と直接会話をしたり、質問に答えたりもしました。

これからも、学習者が自分のことを自分の言葉で話すことを支援していきます。

「横浜でつながる 暮らしの日本語」10月・1月コーステーマ・概要

10月コーステーマ「買い物」		1月コーステーマ「健康・安全」	
第1回(10/3)：買い物に行こう 第2回(10/10)：ほしいものを選ぶ 第3回(10/17)：コンビニを使おう 第4回(10/24)：電話で聞いてみよう 第5回(10/31)：私のおすすめを紹介してみよう		第1回(1/8)：病気を予防する 第2回(1/15)：病院へ行く 第3回(1/22)：薬を買う 第4回(1/29)：天気的情報を調べる 第5回(2/5)：災害にそなえる	
日時 場所	2024年10月3日・10日・17日・24日・31日 全5回 木曜日 10:00~11:15 (75分) オンライン(Zoom)	日時 場所	2025年1月8日・15日・22日・29日、2月5日 全5回 水曜日 14:00~15:15 (75分) オンライン (Zoom)
講師 参加人数	・郡 廣子さん ・藤岡葉子さん 2人 (のべ10人)	講師 参加人数	・小野里香さん ・金子聖子さん ・郡 廣子さん 3人 (のべ10人)
学習者 参加人数	・横浜市内に住んでいる人・働いている人・横浜の学校に通っている人 ・ひらがなが読める人 参加人数：14人 (のべ50人) 国・地域 (中国4、ブラジル3、インド2、台湾1、イギリス1、タイ1、インドネシア1、日本1)	学習者 参加人数	・横浜市内に住んでいる人・働いている人・横浜の学校に通っている人 ・日本語で簡単な会話ができる人 参加人数：13人 (のべ50人) 国・地域 (中国2、ウクライナ2、インド1、台湾1、イギリス1、ケニア1、インドネシア1、フランス1、ネパール1、モザンビーク1、パキスタン1)
サポーター 参加人数	・横浜市内地域日本語教室で活動している方 参加人数 2人(のべ10人)	サポーター 参加人数	・横浜市内地域日本語教室で活動している方 参加人数 6人(のべ10人)



よこはま日本語学習支援センター

Yokohama NIHONGO Support Center

<https://yokohama-nihongo.com>

運営:公益財団法人 横浜市国際交流協会(YOKE)

地域日本語教育に関わる方や関心のある方
日本語学習をしたい方「知りたい・やってみたい・つながりたい」
をサポートします!

「よこはまでつながる 暮らしの日本語」10月・1月コース 実施報告

主催:(公財)横浜市国際交流協会

活動の主な流れの例(テーマ 健康と安全「薬を買う」)(75分)(1月22日)

(ゴール:・ドラッグストアでのやり取りを理解し、状況や場面に相応しい言い方を話すことができる・実際の生活の中で話をすることができる)

1 全体活動 (20分)

ウォーミングアップとして、テーマと関係があるドラッグストアについて話しました。ドラッグストアのイラストを見て、「見たことがありますか?」(はい、あります)、「どんなところですか」(薬を買える店)、「家の近くにあるドラッグストアの名前は?」(〇〇があります)(△△・・・があります)(名前を覚えていません)など、また、「何を買いましたか」の質問には、(頭が痛いときのくすり)、(石鹸)・・・などたくさんやり取りをしました。

さらに、薬の形(剤形)について、錠剤やカプセル、粉薬などイラストを見ながら、よびかたを確認しました。このような活動を通して、本日のテーマについて理解すると共に、とても話しやすい雰囲気になりました。

2 グループ活動 (30分+10分)

各回のグループ活動は2回行いました。1回目のグループ活動(約30分)では、2つのグループ(講師・サポーター・学習者4~5人で一つのグループ)に分かれ、「くすりがほしいです」のシーンを使い活動を行いました。

1回目の動画視聴後は、聞きとれた単語やフレーズを話しました。「貼る薬」「腰痛用の湿布」のような単語・簡単なフレーズや「腰が痛いので腰痛用の薬を買いたいです」など長めのフレーズ、「シナリオが分かりました」と、自分の言葉でシーンのおまかな内容を説明してくれたりしました。2回目の動画視聴では、内容の確認、大意を把握するなどしました。

学習者が答えに詰まったときは、講師とサポーターで会話を行いました。例えば、「どうして〇〇さんはドラッグストアに行きましたか。」に対し、サポーターが理由を説明しました。このようなサポーターの話し方をきくことで、自然な日本語のやり取りに触れる機会となりました。

2回目のグループ活動(約10分)では1グループあたり、講師又はサポーターと学習者2~3人の計4グループに分かれ活動しました。

学習者は1回目のグループ活動の中で理解できなかった言葉や話し方、疑問に思ったことについて質問したり、ペアでロールプレイをしながら理解を深めました。少ない人数なので、話す機会も増えたと思います。

3 全体活動 (15分)

最後の全体活動では、「薬局で薬を買ったことはありますか」「どんなときに買いましたか」「どんな薬を買いましたか」といった質問に対し、勉強した言葉を使って自分が経験したことを話したり、他の学習者とペアでやり取りしたことやとグループ活動の中で触れたことを皆さんの前で発表しました。

また、教室活動で印象に残ったことばやフレーズを学習者が書く時間を設けることで、自分自身の学習の振り返りにつながり、自律学習への一助になるようにしました。

学習者の声

- ・日本の文化・習慣で分かることが増えた。生活に必要な情報を集めることが増えた。
- ・今後、(市・区)役所での手続きができるようになりたい。・もっと友達や知り合いと話したい。

サポーターの声

- ・どんなレベルの人でも何かを学べる場所でした。
- ・学習内容を押し付けることなく、でも導いているところが良かった。
- ・トピックスがちょうど今の時期にピッタリだったし、学習者にとって身近なことだった。みんなで確認できてよかった。

講師の声

- ・他の教室より発話時間が多く取れるところがいい。人数が多いので、全体では話せる時間が少なくなるが、2回目のグループ活動でサポーターも参加し少人数で発話できたのがいい。
- ・学習者が自分の話したいことを話せる場になっているのが良かった。
- ・最初の全体活動を通して、学習者が話したいというわくわくしている気持ちのまま、グループ活動にいかけて良かった。



よこはま日本語学習支援センター

Yokohama NIHONGO Support Center

<https://yokohama-nihongo.com>

運営:公益財団法人 横浜市国際交流協会(YOKE)

地域日本語教育に関わる方や関心のある方
日本語学習をしたい方「知りたい・やってみたい・つながりたい」
をサポートします!